

高知市は1958年に建設した本庁舎が耐震性の不備や老朽化等により、新庁舎を建設する。完成は2019年6月の予定だ。今回の建設では地盤改良工事(丸太打設工事)で県産杉間伐材1万5700本を積極的に活用。大規模建築物では全国初となる。新庁舎の規模は約2万8000平方メートル。地上5階建て(1部6階)を★

★ 計画している。基礎の液化化対策の方法として、丸太打設液化対策工法(LPIL iC工法)を採用した。

新庁舎の敷地は暖かい砂地盤のため、丸太を地盤改良材として打設することで、地盤密度

の増大を図る。酸素に触れない限り丸太は劣化することなく(半永久的)、長期間炭素貯蔵を行うことができる。また、丸太なので掘削を併用することで大型重機を使わないなど振動や騒音が少ないことが特徴だ。杉丸太は直径約16センチ程度で長さ4メートル。樹皮を剥ぎ、先端部を3〜4面に切断しペンシル状に加工したものを使用する。製リブ・梁化粧張り、

地下水汚染などの環境汚染の心配もない。無排土(地上へ土砂を排出しない方法)の先行新庁舎では、床では

2階テラス床や1階市民ロビー等共用部にフローリングと木製床組み、壁は1階市民ロビー等共用部や議場に木製ルーパーなど木材を利用した。